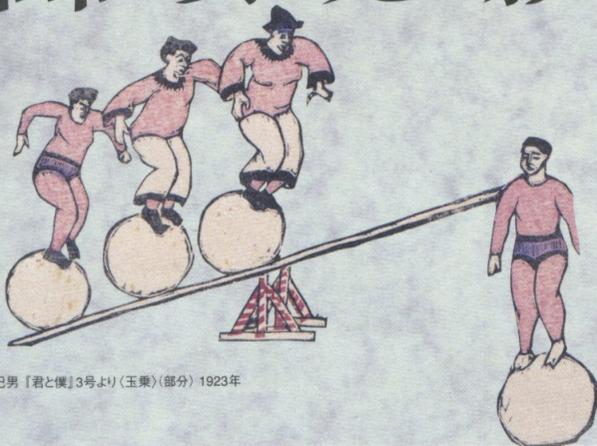




小穴隆一 芥川龍之介(著)「夜来の花」見返し 1921年 神奈川近代文学館蔵

日本の版画 1921-1930

都市と女と光と影と



小泉栄日男「君と僕」3号より(玉乗)(部分) 1923年

2001年9月18日(火) → 10月21日(日)

休館日=月曜日[ただし9月24日(月・祝)・10月8日(月・祝)は開館/9月25日(火)・10月9日(火)は休館]

開館時間=午前10時→午後6時/金曜日は午前10時→午後8時[入館受付は閉館の30分前まで]

主催=千葉市美術館/東京新聞

入館料=一般800円(640円)/高校・大学生560円(450円)/小・中学生240円(200円)

*()内は前売・団体30名以上 *10月13日(土)・14日(日)・18日(木)の3日間は千葉市民の日のため無料開放

*前売券はJR東日本びゅうプラザ(10月21日まで)、千葉市美術館ミュージアムショップ(9月16日まで)ほかで発売

千葉市美術館 千葉市中央区中央3-10-8
ハローダイヤル=043-227-8600
ホームページ=<http://www.city.chiba.jp/art>

JR東日本で前売入館券発売中!

お求めは、JR東日本のみどりの窓口、びゅうプラザへ

前売入館券:一般640円、高校・大学生450円、小・中学生200円

※お買い求め頂きました前売入館券の変更・払い戻しはいたしません。



☎222550



奥山儀八郎 中元大売丸ビル商店联合会(ポスター) 1929年頃 松戸市教育委員会蔵



川上澄生 新東京百景 浅草公園カゾフォーリー 1930年 東京都現代美術館蔵



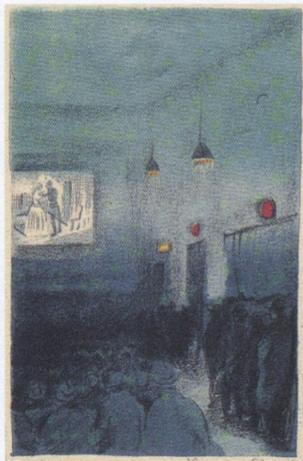
福田知雄 顔 1925年 千葉市美術館蔵

日本の版画 1921-1930

都市と女と光と影

この展覧会は、1921年(大正10年)から1930年(昭和5年)までの10年間に、日本の版画がどのような作品を生み、私たちに何を語りかけてくれるのかを探ろうとするものです。

「自画自刻自摺」を謳った創作版画の領域では、恩地孝四郎や平塚運一、川上澄生、川西英といった作家たちがそれぞれに独創的な「版のかたち」を深化させました。彼らは展覧会やあまたの版画誌を舞台に奔放な刀をふるって版画熱をあおり、日本各地の若者を版へと導きました。浮世絵の流れをくむ世界では、1923年9月の関東大震災をきっかけに、当代の風物を写し、広くゆきわたらせるという錦絵本来の機能が改めて見直されました。「現代の浮世絵」を志す、いわゆる新版画の版元が渡邊庄三郎以外にもいくつか生まれ、



織田一磨 画集銀座の内 シネマ銀座 1929年 個人蔵



岡田龍夫 「マヴォ」5号より(葡萄する蛇三匹) 1925年 東京都現代美術館図書室蔵



川上澄生 月の出 1926年 鹿沼市立川上澄生美術館蔵



作者不詳 井上正夫氏主演「狂っの一頁(七巻)」他、廿四日より三十日まで。松竹堅。(ポスター) 1926年 京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵 AN.3710-5/34

伝統とモダンとがせめぎあう貴重な作例を残しました。また岡田龍夫や村山知義ら、新興美術運動の作家たちも、20年代の版画界に忘れがたく強烈な光芒を放っています。

1920年代の版画が語るのは、造形や技法の冒険だけではありません。関東大震災という未曾有のできごとは古い東京を一掃し、社会を激変させ、現代の生活の原形を作りました。鉄とコンクリートの構成物へと変わりゆく街、因習から解放たれて街を闊歩する女たちの姿に、版画家たちは驚きと好奇心に満ちた視線を投げたのです。彼らが刻んだダイナミックで享乐的、同時に影をも宿した都市の姿は、私たちには懐かしく、そして少々ほろ苦く映るかもしれません。洗練された版表現のなかに、当時の社会を色濃く写す作品群—ポスター、装幀、デザインなどもふくむ約300点から、版画というメディアの魅力を感じていただけたら幸いです。なお本展は、1997年以来千葉市美術館で開催しております「日本の版画・1900-1910・版のかたち百相」「日本の版画・1911-1920・刻まれた「個」の饗宴」に続く第3弾であり、展覧作品の約4分の1を千葉市美術館所蔵品により構成いたします。

【イベント案内】

●伝統版画 年賀状作りの実演と解説

10月7日(日)午後2時より 11階講堂にて 入場無料(定員150名)
講師:安達以乍牟氏(アダチ版画研究所)

●ギャラリートーク(担当芸員による)

毎週土曜日午後2時より 参加自由(7階展示室入口に集合)

●同時開催

「キンゼイコレクション 現代根付」8月7日(火)→9月24日(月)
「千葉市美術館所蔵 浮世絵名品展」8月7日(火)→9月24日(月)
「所蔵作品展 有相無相(仮称)」10月2日(火)→11月4日(日)

●次回展予告

「江戸の異国趣味—南蘋風大流行—」10月30日(火)→12月9日(日)

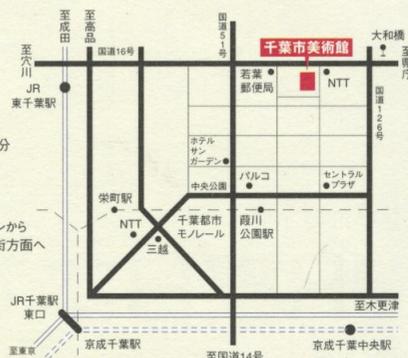
●「友の会」入会のご案内

企画展・所蔵作品展が無料になるほか、図録の割引などの特典がございます。ぜひご利用ください。入会ご希望の方は美術館受付にてお申し込みください(休館日はお申し込みできません)。くわしくは美術館(Tel. 043-221-2311)までお問い合わせください。

※会期中展示替を行います。

【交通案内】

- JR千葉駅東口より
徒歩約15分
京成バス(のりば)「大和橋」下車2分
千葉都市モノレール県庁前行「葭川公園」下車5分
- 京成千葉中央駅東口より
徒歩約10分
- 東京方面より車では
京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから
木更津方面へ貝塚IC下車 国道51号を千葉市街方面へ
約3km広小路交差点近く
地下駐車場あり



千葉市美術館

千葉市中央区中央3-10-8 / TEL:043-221-2311 (代)
ホームページ=http://www.city.chiba.jp/art ハローダイヤル=043-227-8600